

# 教育人事交流

令和7年度  
看護部看護職対象



## 看護部看護職 対象

看護学科との教育人事交流は、看護専門分野の知識を学び直し、**看護実践力、アセスメント能力、教育力の向上**につなげることを目標としています。

### 看護職キャリア支援センター

----- 人事交流部門事業

○ 人事交流事業では、**ご自身で実施計画を立て、看護学科の各領域とスケジュールを調整しながら大学の教育・研究業務**に関わっていただきます。活動期間中は、「学内特別講師」の職務発令を受けて**教員業務全般に参加**することができます(ただし、授業科目の科目責任者になることはできません)。実施にあたっては、所属長に勤務スケジュールを相談しながら、交流先と実施スケジュールを決めていただきます。

○ 看護学科での教育の実際を体験しスタッフ指導、臨地実習指導に活用したり、キャリアを考える機会とするなど、**ご自身で目標を設定して大学の教育・研究活動に携わることが**できます。

### 参加者の声

----- 令和5年度参加

○ 人事交流は学生が受けている教育の内容や学校での実際の様子を知るよい機会となった。実習指導では患者との関わりを通して学び、成長していく学生の姿をみることができ、実習は学生にとって貴重な機会であると改めて感じた。交流部署の教員の考えや思いも知り、自身も学生から刺激を受けて学ぶことができたため、普段の病棟看護師とは違う視点で考え、視野を広げることができたため、人事交流は今後の自己のキャリアを考える上でも貴重な経験になったと思う。



**対象** ----- **看護部看護職**  
キャリアラダーレベルⅢ(ジェネラリスト)以上または、マネジメントラダーレベルⅠ

**目的**  
看護専門分野の知識を学び直し看護実践力、アセスメント能力、教育力の向上につなげる

**目標**  
1)看護学科での教育の実際を体験しスタッフ指導、臨地実習指導に活用する  
2)キャリアを考える機会とする

**期間及び時間**  
・発令の日から当該年度の年度末までを限度とした本人希望の期間(時間・日・週・月単位を可とする)  
・基本、平日の昼間の 7 時間 45 分以内

**勤務形態**  
学内特別講師の発令を受け、現地で勤務する(給与形態は変更しない)

**主な業務内容** ※詳細は裏面をご覧ください  
教員業務全般(科目責任者として担当しない)

**応募の時期**  
次年度の教育人事交流希望者は、教育人事交流申請書(様式1)を記入し、所属の看護師長に**令和6年10月末まで**に提出する

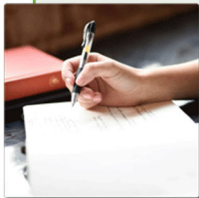
**応募方法**  
ホームページに掲載している「看護学科教員と看護部看護職の教育人事交流(兼務編)申し合わせ」、「看護学科教員と看護部看護職の教育人事交流(兼務編)運用手順」、「教育人事交流申請書(様式1)」をご覧ください。

看護職キャリア支援センター 人事交流  
<https://www.asahikawa-med.ac.jp/ncsc/exchange>

※教育人事交流申請書(様式1)に記載する交流内容、希望時期、希望期間はあくまでも希望であり、実際の交流日程や内容は交流先と検討の上、決定されます。



## 看護学科 令和7年度受け入れ可能な領域・科目



	領域	科目	概要	
看護の基盤	基礎看護学	看護学概論	看護および看護学について概観し、看護の基本的知識と看護実践者としての基盤を学習する。	
		基礎看護技術学Ⅰ	看護技術の概念を理解し、看護ケアに必要な基本技術を科学的根拠に基づき学ぶ。	
		基礎看護技術学Ⅱ	人間の日常生活に対する理解を深め、日常生活に関する援助技術を科学的根拠に基づいて学ぶ。	
		基礎看護技術学Ⅲ	リスクマネジメントに対する理解を深めながら、診療に伴う援助技術を学ぶ。	
		基礎看護技術学Ⅳ	看護過程の展開の基礎的な知識・考え方を学び、論理的思考・判断力に基づいた看護実践のための基本を習得する。	
		看護フィジカルアセスメント	看護技術としてのフィジカルアセスメントの概念、目的、意義について理解する。	
		看護倫理	看護者として適切な倫理的意思決定と行動をするために必要な基本的知識を学習する。	
		看護理論	看護実践の科学的基盤となる看護理論とは何かを学び、看護実践に看護理論がどのように活用されるかを理解する。	
		基礎看護学実習Ⅰ	患者の生活、患者が受けている看護を理解する。また、看護実践に必要な基本的態度を身に付ける。	
		基礎看護学実習Ⅱ	入院患者を統合体として理解し、療養生活上の看護援助を行い看護実践に必要な基礎的な看護技術を習得する。対人関係を築くために必要なコミュニケーション能力を高める。	
		精神看護学	コミュニケーション論	人間関係を個人から集団レベルまで広く捉えながら、コミュニケーション理論の理解とそれに基づいたスキルを学ぶ。発達に関する理論について学ぶ。
		小児・母性・高齢者・精神看護学	人間生涯発達論	
		特性と看護	成人看護学	成人看護学Ⅰ
成人看護学Ⅱ	周術期看護の概念を理解し、周術期における看護師の役割と手術を受ける患者および家族の特徴、必要な看護援助について学ぶ。			
実践看護技術学Ⅰ(成人) 成人看護学実習Ⅰ(急性期)	健康障害を生じている成人期の患者に必要な看護援助を習得する。周術期にある対象者の特徴を理解し、援助関係を成立させ、対象者のニーズに応じた援助ができる。また、対象者のセルフケア能力が最大限に発揮され、QOLが向上するような看護援助を実践する。			
成人看護学実習Ⅱ(外来)	健康障害をもち外来を受診する成人期にある対象者を理解し、対象者に必要な看護支援ができる能力を養う。医療チームにおける看護の役割を理解し、継続看護の実践に必要な能力を養う。			
成人看護学実習Ⅲ(慢性期)	慢性期や終末期の対象者の特徴を理解し、対象者のセルフマネジメントが最大に発揮され、苦痛緩和やQOLが向上する看護援助を実践する。かかわる専門職やチーム医療、継続的な医療・看護の役割機能を理解する。			
高齢者看護学	高齢者看護学Ⅰ			高齢者の身体生理的、心理発達の、社会的特徴の理解と共に、老年期に多い疾患の特徴と看護を学ぶ。
	高齢者看護学Ⅱ		高齢者の個別性に応じた老年看護の展開ができるよう、基本となる知識の習得と完成を涵養する。	
小児看護学	小児看護学		小児と家族に関わる社会環境や法律・施策などを概観し長・発達段階別・症状別など小児の特徴と看護について学ぶ。	
母性看護学	母性看護学		女性のライフステージにおける健康課題と看護、産褥期の女性と新生児の特徴と看護などを理解する。	
	母性看護学実習		妊産褥婦・新生児とその家族の特徴を理解し、個別性を考慮した看護過程を展開し基本的な母性看護のケア実践ができる能力を養う。実習を通し看護学生としての責務、倫理的行動、生命や人権の尊重を学ぶ。	
精神看護学	精神看護学Ⅰ		精神障害の有無にかかわらず、すべての人の心の健康を支えるための看護について必要な基礎知識と視点を学ぶ。	
	精神看護学Ⅱ		精神症状が対象者に及ぼす影響を多角的に捉え、発達段階を考慮した回復と自立・自律を促進する看護援助について学ぶ。	
	精神看護学実習		精神の健康問題を抱えながら病院・地域で生活する人々を理解し、対象者との関係性を基盤に看護の方向性を探索し、チーム医療に参画し看護を実践する。リカバリーを実現する多様な場の機能や特性を理解し、精神保健と看護の多様性を考える。	
看護の発展と探求	精神・母性・小児看護学	実践看護技術学Ⅱ(精神・母性・小児)	母性・精神・小児看護学の看護専門技術や、看護師としての倫理的態度についても考察し、対象者の生活の質を保证するための看護実践能力を習得する。	
		高齢者・在宅看護学	実践看護技術学Ⅲ(高齢者・在宅)	高齢者が退院後に在宅で療養できるよう個別性に合わせて必要な技術を実施できることと家族への指導を学習する。
		在宅看護学	在宅看護学	病気になっても住み慣れた場所で生活する療養者を支える在宅看護や福祉システムを習得する。
		がん看護学	がん看護学Ⅰ	高度で専門的ながん看護の基本的知識を学び、がんを持つ人とその家族ががんと共に生ずることを支援する技術、倫理的課題について取り組みQOLを高めるための実践を導く基本的がん看護を学ぶ。
		高齢者看護学	チーム医療・リハビリテーション看護論	リハビリテーションの概念と看護の役割やリハビリテーション専門職の役割とチーム医療を理解する。
公衆衛生看護学	国際保健・災害看護論	地域社会で生活している人々の健康レベルの向上と地域全体の健康レベルの向上を目指す活動について理解する。		